

令和6年度 学校関係者評価書

評価項目	本年度の活動(具体的な平年度)一概要	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上×ICT活用	<p>理科授業を研修の中核とした授業力向上</p> <p>「授業アンケート」「学校の勉強は楽しいか」90%以上</p> <p>「ICT活用の授業は分かりますか」90%以上</p>	<p>○全国学力調査では、国語・算数ともに+1%増平均を上回る事ができた。全国と比較すると、国語は+0.3%、算数は+0.4%となった。算数では全国を下回る結果となったが、全国平均とはほぼ同じ水準であった。</p> <p>○みえスタディ・フェスティバルでは、4年生の国語が+15.4%、算数が+7.8%で5年生の国語が+9.3%、算数が+7.4%で県平均を大きく上回る結果となった。どちらも、日々の授業の積み重ねや学習意欲の振り返り、県の提供するプリントや過去問等に取り組んだ成果であると考えた。</p> <p>▲みえスタディ・フェスティバルの5年生理科は県との差が大きかった。他教科の学習でも共通することであるが、記述する部分に弱みが見られる。理科の内容を日常生活とつなげることで、観察・実験から学べるように表せていく。各教科の学習とつなげる意義を承認し、条件に合わせて書くことに取り組んでいく必要がある。</p> <p>○児童アンケートの「学校の勉強は楽しい」の項目では、7月時点で肯定的な回答が91%、12月は90%と目標の数値を達成することができた。</p> <p>▲4年生以上の学年で否定的な回答が増える傾向にある。低学年からの学習内容を定着させるとともに、どの児童も主体的に学習に取り組めるような授業内容や授業中の支援について、校内研修を通して考えていきたい。</p> <p>○児童アンケートの「タブレットを使った授業は分かりますか」の項目では、7月時点で肯定的な回答が93%、12月は92%と目標の数値を達成することができた。</p> <p>○タブレット活用に関する児童生徒向けアンケートでは、「授業中にタブレットを使う頻度はどのくらいですか」という項目に対して、1~3年生の77%の児童が「週に1回以上使っている」と回答している。昨年よりも増加している。4~6年生は、80%の児童が「週3回以上」と回答しており、タブレットを活用した学習が定着してきている。</p> <p>▲活用が進んでいく中で、「分らない」と回答する児童も8%いる。基本的な操作技能の定着はもちろん、タブレットを使うことが目的にならないよう、活用方法の精進をしていく必要がある。</p>	<p>・学習、みえスタディ等に重点的に取り組んできたこと、子どもたちが学習の意欲を高めていること、どちらも先生方が授業力向上に向けて日々取り組んでいること、</p> <p>・日頃から分りやすい授業をされていることで、全国学力調査でよい結果が出たのだと思います。</p> <p>・全国学力調査のみえスタディで平均を上回っていることは、日頃より確かな学習方法で取り組まれているからと考える。</p> <p>・取組に関しては、本音とくさん読むなど、文章の表現力を身に付けることも必要である。</p> <p>・アンケートの「学校の勉強は楽しい」と「ICTを活用した授業は分かりますか」に関しては、ICTを活用した立体的な授業や授業の創意工夫をされて、子どもたちが主体的に学習していると感じる。</p> <p>・子どもが勉強ばかり見すぎる。一歩ばかりしている問題は、多くの家庭が抱えている課題の一つであるが、学習意欲を高める必要がある。授業中使用できるよう、親も含め、学校でも更に指導していただければと思う。</p> <p>・4年生以上の学年で否定的な回答が増える傾向)及び「活用が進んでいく」といおうとする児童も8%いることについて、分からない児童をおいては、分からないままに放置してはいけません。</p> <p>・小学生の学力について判断するのは、子どもを持つ保護者でも多く経験上にかかる立場ではないので難しい。ただ、時折目にしたり聞いたりした様子から、教育も以前とは変わり、新しくなっていることを感じる。各教科の内容も、教材も、また教師の仕掛けも変化してきている。授業の質を維持するには、教員の方々が相当な努力が必要だと思ふ。</p> <p>・取組に必要とする知識やスキルを、より早く身に付けるためには、圧縮された学習イメージが浮かびやすいが、余白の取り方こそ学習を助けてくれるのではと思ふ。</p> <p>・近年タブレット活用授業の授業が過剰となつている。授業が良ければいい、知識を覚える、正確に正確に置き換えて理解できるように、少し不安を感じる不慣れな児童のフォローの必要性を考えた。また、</p> <p>・今後は、自分の考えを表現することがますます重要になってくると思われます。そのためにはたくさんのお話を聞き、言葉や態度を豊かにすることが大切だと思います。せっかくタブレットを使って学習しているのに、児童も電子書籍が利用できるといふこと、国語などの教科書も電子書籍化が、がんばってほしい。</p> <p>・高学年になると、道もより一層難しくなるので、勉強が楽しくないと思う方は仕方ないと感じる。苦手を克服する児童が何につまづいているか把握し、支援をお願いします。</p> <p>・様々な場面やタブレットを上手に活用していると感じています。</p> <p>・学習以外の目的とは異なる使い方をしている児童もいると聞きます。改めて家庭でも使用ルールを確認する必要があります。</p> <p>・家庭学習化推進への取組は、自宅での学習を習慣化することにつながると思うので、今後も続けてほしい。</p>	<p>・学校生活の中心となる授業が、子どもたちにとって「分りやすい」、「楽しい」と感じられるように、教師側が学習、学校での研修を通した学びを続けていく。</p> <p>・また、子どもたちが学習の主体となるように、各教科で必要とされた資力力の育成と、学び方についても検討し、日々の授業づくりにも活かしていきたい。</p> <p>・ICTの活用が進む中で、書く活動「日記」を入力の代わりに書くように、必要に応じて活用していきたい。</p> <p>・図書担当や図書委員の企画を主として、どの学年も図書室に行き、本を読む時間を設けたり、図書の時間を設け開きを行ったり、様々な取り組みの機会を大切にしたい。</p> <p>・ICT機器については、今後も活用方法について、個人や学年での学習経験を続け、活用した所感を交換しながら、よりよい活用につなげていきたい。</p> <p>・校内で自分でやっている、家庭学習やタブレットや電子書籍を活用したメディアお休み時間の取組を継続して行うとともに、結果を保護者に伝える。</p>
新たな学びを生み出す学校づくりのために、人材教育、生活指導、安全確保、児童福祉の推進を推進する	<p>「児童アンケート」児童生活に関する回答率90%以上</p> <p>「児童アンケート」いじめのない学校づくり、100%</p>	<p>▲保護者アンケートより、「いじめのない学校づくり」の項目では、7月時点で肯定的な回答が98%、12月は97%であり、目標の数値を達成することができた。日頃から児童との対話を中心とし、問題が発生した際には迅速に管理職や生徒指導主事、学年主任で情報共有を行っている。また、発生した問題について、保護者連絡会により取り組んでいる。しかし、いじめアンケート等で新たないじめ事案が発生することも少なくなかった。自分たちが感じているように、児童もまた対話する必要がある。そのため、問題が起きてからではなく、児童との日ごとの何気ない会話をさらに意識して増やしていきたい。悩みを話しやすい関係を築いていきたい。</p> <p>○児童アンケートより、「先生は話を聞いてくれる」の項目では、7月時点で肯定的な回答が95%、12月は94%であり、目標の数値を達成することができた。引き続き、児童の「できた」や価値ある姿に出会ったら、その場面を活かすに具体的なサポートを行ってきたい。また、児童福祉に関することで信頼関係を築き、どんなことでも話しやすい関係をつくってきたい。</p> <p>○学習に励むために、教室に入りにくい児童に対して、SCのササメとSSのアドバイスを基に、組に応じた支援を行っている。さくらルームが児童にとって安心できる居場所となるように、人的環境・物的環境を整えている。SLSによる家へのお迎えや担任・コーディネーターの家庭訪問などで、学校との関係の途切れないよう心がけている。定期的に1回、校内コーディネーター会議を開き、教育支援課から不登校アドバイザーを招き、新たな不登校を生まないよう支援の見直しをしている。これからも、児童の思いや保護者の思いを大切にしながら、学校全体で支援を進めていきたい。</p>	<p>・先生の話しやすくて児童の不安感を受け止め早期対応に、安心感が持てる。</p> <p>・いじめ・不登校は、大きな社会問題でもあり、一歩引くことな難関であると思うが、入ひのり子ども・家庭に向き合い、配慮し、組織的に対応されている。</p> <p>・アンケートの「先生は話を聞いてくれる」で、90%もの児童がそう思っているということ、素晴らしいことである。学校生活において、信頼できる、何ですべて相談できる先生がいるということは、児童にとって安心感があり、心強いことである。</p> <p>・児童は、「先生は話を聞いてくれる」ことがうれしいことの一つであると思うので、今後も児童と話しやすい関係をつくってほしい。</p> <p>・長期欠席対策として、学校でできる対応はほぼできて行っているように思う。不登校を減らすために重点をおくのではなく、不登校の児童に対する教育をどのように実施するか、といった点を改善する上にも取り組んでいくべきと考えているように思う。</p> <p>・長期欠席の児童の多さに驚きました。今は、いじめの被害者だけでなく、子どもの被害が不登校につながっており、なかなか解決は難しいなと感じました。一方で「先生は話を聞いてくれる」と思っている児童が多いので、先生方も子どもたちと信頼関係を築けていると思います。</p> <p>・不登校への取組は十分れていると思います。対応だけでなく、SC・SS等の活用も十分活用されているので、今後も細かな対応、支援をお願いします。</p> <p>・子どもたちの心の安定が何より大切だと思ふ。学校だけではなく家庭でも子どもたちの小さな変化を見逃さず、支えていきたいです。</p> <p>・登校しにくい児童への取組や支援を充分していると感じます。支援を受けたり、利用されている方の満足度が気になります。</p>	<p>・児童の心に寄り添い、話を聴くことで信頼関係を築き、どんなことでも話しやすい関係をつくってほしい。</p> <p>・また、必要に応じて関係機関につなぐ際、環境を整えながら具体的な声かけを行い、安心して楽しく学校生活が送れるように努める。</p> <p>・「いじめのない学校づくり」の項目について、いじめの未然防止に努め、100%達成を目標とする。そのために、普段の生活の中で、児童同士のかかわり方を意識し、見守り、変化に気づくようにしていきたい。</p> <p>・不登校傾向の児童のいる場合には、必要に応じて関係機関につなぐ際、環境を整えながら具体的な支援を進めていきたい。</p> <p>・学校に積極的に関心・教員に積極的に児童に対しては、本人の気持ちや尊重しながら、少しづつ周りの友だちとつながり、さくらルームでできることを増やしていきたい。自己肯定感を高める。</p>
保護者の丁寧な対応による信頼関係の醸成	<p>保護者アンケート「保護者の相談に適切に対応」90%以上</p> <p>地域の教材と人材の積極的活用</p> <p>「保護者アンケート」地域と触れ合う学習の実施」90%以上</p>	<p>○「保護者の相談等に適切に対応」90%以上一肯定的な回答99%</p> <p>・相談等について学年や主任で相談し報告を行い、必要に応じて支援会議を開いた。今後も相談があった際には丁寧な対応を続けていく。</p> <p>○「地域と触れ合う学習の実施」90%以上一肯定的な回答95%</p> <p>・1~3年生で校区の町探検で地域の公園での活動やお祭りの見学を行った。また、4年生では学区で地域の方が経営する工場見学した。学習ボランティアとして、読み聞かせや学習の補助で多くの支援をいただくことができた。</p>	<p>・「保護者の相談等に適切に対応」及び「地域と触れ合う学習の実施」について、どちらも肯定的な回答が90%以上である。よすがだが、少しは肯定的ではない回答があるのであれば、さらにも目を向け、さらなる向上を目指してほしい。</p> <p>・「保護者の相談等に適切に対応」についても、配慮していただき、組織的に対応している。</p> <p>・「地域と触れ合う学習の実施」について、多くは予定通りと感じる。児童の知見も広がり、いじり減っている。</p> <p>・地域での学習や活動の機会は年々増えてきたように思う。学校内外のボランティア活動も長年継続して、地域に対する親しみを深めたことも増えていると思う。地域としても、今後も継続して努力していきたい。</p> <p>・保護者と学校が信頼関係を築いていると思ふ。今年度はボランティアも増えているようで、ボランティアの力を借りて先生方と子どもたちのために活動できるよと思いました。</p> <p>・保護者アンケートの結果から、学校・保護者が良好な関係を築けていると思う。多様な家庭環境、ニーズに対応することは大変だと思うが、引き続き丁寧な対応をお願いします。</p> <p>・学習ボランティアを積極的に活用できていて評価できる。今後も地域とのつながりを大切にして、登下校時の見守りなど地域の方に協力して頂けると感じています。</p> <p>・学習ボランティアにも多くの学年に協力して頂いています。</p>	<p>・地域コーディネーターからボランティアの募集をかけてもらい、学習活動に協力いただける方を増やすこと、地域と触れ合う機会を確保し、連携を取り合い、学習等への協力を進めたい。</p> <p>・登下校時の見守りや地域の協力をお願いしたい。</p> <p>・今後、町探検や学区のお祭り、工場見学等の学習を行い、子どもが地域への愛着心や育み、地域へのつながりを感じてほしい。</p> <p>・地域の方に教育への関心を高めるために、保護者がだけでなく地域へのボランティア募集も検討していきたい。</p>
非認知能力育成	<p>校内研修で、「やめぬく力」「自己肯定感」「社会性」を育成するための方法を話し合う</p> <p>「保護者アンケート」保護者の相談に適切に対応」90%以上</p>	<p>○生徒指導の観点では、「自己肯定感」を高くするための取組を主に行った。学期初めに進んで行った。2024年スタートアップの取組では、各クラスが、挨拶をはじめとした生活の中での目標を決め、その達成状況について教師が言葉がけを行った。今年も継続して多くの教師も「自分たちはできた!」と感じることができた。また、言葉がけの中のものとして、多くの児童が「自分たちはできた!」と、正直に受け取り、実践しようとする姿も見られた。自分たちの成果を感じ、課題に正直に向き合える姿から、「自己肯定感」の高まりを感じた。</p> <p>○人材教育の観点では、「自己肯定感」を育成するための取組を進めていく。7月の児童アンケートの「自己肯定感が高い習慣の実施(肯定的な回答24%)」を受けて、児童が自己肯定感を高めるための取組として、以下の6つを手段として職員で共通理解も進め、①努力したプロセスをほめる。②児童の行動をよく見つけ、具体的にほめる。③自己肯定感を高められるよう取り組みを行う。④「～してくれてありがとう」の理由を伝える。⑤成功体験を増やす。⑥よいところ、得意なところをさらに伸ばせる手段を考える。以上である。取り組みの結果、12月の児童アンケートでは、肯定的な回答は23%と僅かではあるが減少した。引き続き6つの取組を進めていきたい。</p> <p>○研修の観点では、「やめぬく力」「社会性」を育成するための取組を進めた。研修主題を「思いや疑問を、実現・解決する子の育成」とし、子どもたちが主体となって学習に取り組めるような授業づくりを心がけている。また、一人での学びだけではなく、学校の仲間と関わりながら学ぶことも大切にしていく。児童アンケートの「学校の勉強は楽しい」に対して、肯定的な回答が90%となっており、多くの児童が前向きに学習に取り組んでいることがわかる。非認知能力アンケートの「わたしががんばる」に対しては、昨年度より4.7%が肯定的な回答に変わった。</p> <p>▲児童アンケートの結果の反面、学習に前向きに取り組めない児童の増加は、どの学年とも見受けられ、本校の課題である。児童が学習の主体者となるように、日々の授業をよりよいものとしていく必要がある。</p> <p>▲非認知能力アンケートの「友だちと助け合いながら活動できる」の項目は、肯定的な回答が5.9%増えた。授業での関わりを中心に、学校生活の中で児童同士の間で発揮する機会が多くなる。教師が児童を必要とされる役割を果たしていく必要がある。</p> <p>▲4~6年生対象の「幼稚園非認知能力アンケート」の結果、幼稚園の平均値と比較すると、「やめぬく力」は否定的な回答が少なく、肯定的に答えている児童が多かったが、他の3要素については否定的に答えている児童の割合が多かった。</p>	<p>・「自己肯定感」について、否定的な回答が20%程度であることから、今後も職員で現れ取り進んでいく。1人のための実施、をさらに進めてほしい。</p> <p>・非認知能力育成に関して、自強心や自己肯定感、本人が感じるようなことで、外から押しつけて見せつけようと思ふと思いますが、研修もされ、いろいろな取組をされ、実践して頂いて、児童の成長が感じられますように変わっていくのではないかと思ふ。</p> <p>・意識的なことなので、なかなかすぐには成果は出にくいと感じると思いますが、粘り強く取り組んでいただいている。</p> <p>・非認知能力を育成するためには、多くの経験が必要で、こうした機会を得ることについては、地域での取組を進めることも多いと思ふ。</p> <p>・今年度は、夏休みのラジオ体操や夏野菜の栽培など、長期休みを利用して自由で子ども向けの活動も進めた。夏休み中、毎日(ほぼ毎日)行っていたところ、10名程の子どもたちはラジオ体操に毎日参加できたし、畑の水やりに来る子どもも多かった(いわゆる自由参加)。こうした子どもたちは多くは、親子参加で、親とともに継続するようがんばっていた。家庭での取組が子どもにも影響が大きい。今後も様々な地域活動も進め、親子ともに楽しく参加できる機会をつくりたいと思ふ。</p> <p>・「友だちと助け合いながら活動できる」の項目で否定的な回答が増えたことは少し残念です。みんなと仲良くすることは難しいかもしれませんが、お互いにリスペクトする関係を築き、協力し合える関係づくりをしてほしいと思ふ。</p> <p>・「自分にはいいところがある」と思える児童が増えてほしいと思ふ。</p> <p>・子ども間のコミュニケーション不足でトラブルになることも多いようなので、相手の気持ちを考えるなど、道徳的な学習は大切だと思ふ。</p> <p>・「非認知能力育成」は短期間で結果が出ることはないので、コツコツと長い目で続けてほしい。</p> <p>・「自己肯定感」を高めることは、すぐに難しいと思ふが、今後も継続して取り組んでほしいです。学校だけではなく、家庭での取組も大切だと感じます。</p> <p>・学校においては、日々の取組が成果として見えてくるまでに時間がかかると思ふが、ぜひ継続して取り組んでほしい。家庭での取組も大切だと思ふので、継続して対応を続けてほしい。</p> <p>・先生方の負担が大きく、トラブル対応などには十分な時間が取れない中、懸命に取り組んでおられる姿が印象的です。ゆとりを持たせた教員の配属を強く希望します。</p> <p>・努力したプロセスをほめる。～して頂いて、やめぬく力、子どもたちにもっと向き合えるの、子どもたちが笑顔でいてくれることが、大変だと思ふが、がんばってください。</p> <p>・先生方の多忙を少しでも減らして、ゆとりを持って働けるよう、取り組んでほしいです。保護者や地域の協力も必要だと思ふ。</p> <p>・時間外労働時間の軽減については、校務に偏りがないようにするには、組織以外のことはすでに取り組まれていると思ふ。</p>	<p>・自己肯定感を高める手立てとして以下の6つの取組をさらに進めていく。</p> <p>①努力したプロセスをほめる。</p> <p>②児童の行動をよく見つけ、具体的にほめる。</p> <p>③自己肯定感を高めるような取組を行う。</p> <p>④「～してくれてありがとう」の理由を伝える。</p> <p>⑤成功体験を増やす。</p> <p>⑥よいところ、得意なところをさらに伸ばせる手段を考える。</p> <p>児童福祉に努め、実践していきたい。</p> <p>・自己肯定感を高める手立てとして、生活指導の観点から、引き続き効果的な活動を定期的に実行していきたい。</p>
組織的運営	<p>学年主任・担当、管理職への報告と相談を確実にし、組織として取り組む</p> <p>三委員会・学年毎でサポートすることで、若手教員の育成と校務の一年360時間を超える時間外労働者の確保</p>	<p>○学年主任、担当、管理職との報告・相談等情報共有を確実にし、教育委員会への情報提供も円滑に行われていること、指導困難なケースは迅速に協議・対応することができた。</p> <p>○児童園ボランティアの対応について、若手教員に対しては、学年による情報共有や研修等を行い、ボランティア対応のサポートを行い育成に努めた。また、学年主任や学年会を通して、問題発生について情報共有を行い、対応について話し合い、必要に応じて三委員会の役割分担の見直しを行い、平等に取り組むこととした。</p> <p>▲12月末360時間以上時間外労働者数は3人であり、今後も時間外労働時間が軽減できるような方策を考慮する必要がある。</p>	<p>・組織的に対応して頂いている。</p> <p>・情報共有が円滑に行われていること、指導困難なケースは迅速に協議・対応することができた。</p> <p>・教職員業務に関しては、トラブル対応等、授業だけでなく多岐にわたるため、心身の健康を保持するためにも、休日明けの取り組みをすすめていくように、更に体制を整えていくことが大切である。社会全体において更に働き方改革を推進していくべきである。</p> <p>・「トラブル対応」及び「校務の標準化」について、今後も複数の教員で対応して、個人も十分に休んでほしいと思ふ。</p> <p>・先生方の負担が大きく、トラブル対応などには十分な時間が取れない中、懸命に取り組んでおられる姿が印象的です。ゆとりを持たせた教員の配属を強く希望します。</p> <p>・努力したプロセスをほめる。～して頂いて、やめぬく力、子どもたちにもっと向き合えるの、子どもたちが笑顔でいてくれることが、大変だと思ふが、がんばってください。</p> <p>・先生方の多忙を少しでも減らして、ゆとりを持って働けるよう、取り組んでほしいです。保護者や地域の協力も必要だと思ふ。</p> <p>・時間外労働時間の軽減については、校務に偏りがないようにするには、組織以外のことはすでに取り組まれていると思ふ。</p>	<p>・今後学校全体で情報共有を確保し、学校全体でしっかり情報共有が行われていること、指導困難なケースは迅速に協議・対応すること、問題発生時に教育委員会の指導助言の学年主任や管理職等話し合いを行い対応していきたい。</p> <p>・一部教員へ校務が偏らないよう、校務分担の決定の際に配慮して、必要に応じて調整していきたい。</p> <p>・12月末360時間以上時間外労働者数は3人であり、今後も時間外労働時間が軽減できるような方策を考慮する必要がある。</p> <p>・学年毎でサポートすることで、若手教員の育成と校務の一年360時間を超える時間外労働者の確保に努めていく。</p> <p>・校務標準化や時間外労働時間の軽減につながるよう、日課調整を行い、可能な限り1時以降の会議を少なくしていく。</p> <p>・年度末、1月1日の定時退校日を設定していく。</p> <p>・学校時間外労働時間の短縮につながるよう、日課調整を行い、可能な限り1時以降の会議を少なくしていく。</p> <p>・年度末、1月1日の定時退校日を設定していく。</p> <p>・校務標準化や時間外労働時間の軽減につながるよう、日課調整を行い、可能な限り1時以降の会議を少なくしていく。</p> <p>・年度末、1月1日の定時退校日を設定していく。</p>